

昔、布が貴重だった時代には、きものが破れたり擦り切れたりしても、当て布をして繕い、長持ちさせていました。これが「刺し子」の原点です。

東北地方は綿花が育たないので、江戸や大阪から古手（着古した着物）が入ってきて、最初から繕わないと着物にならず、次第にきれいな文様になるよう刺し縫いが発達したと考えられます。山形にはいくつかの地域に特徴的な刺し子が残っています。

刺し子と アイヌの衣服の話

アイヌ民族はサハリン、北海道、千島列島、下北半島などの地域で生活した日本列島北部周辺の先住民族です。現在は日本各地に居住していますが、主として北海道に住んでいます。固有の言語であるアイヌ語、熊送りなどに代表される精神文化、独特の「文様」による刺繍を生かした衣服文化、木彫りなどの工芸、ユーカラなどの文学を継承発展させています。



講演に参加いただいた方には、国立アイヌ民族博物館ミュージアムショップオリジナルのアイヌ文様マグネットを差し上げます。



12 / 1 日 13:30-15:30

会場 遊学館 3階 第3研修室

参加費 無料

主催 刺し子クラブみどり、はなはな倶楽部
共催 山形県男女共同参画センター「チェリア」

講師 廣瀬 隆人

1956年北海道白老町生まれ。北海道教育庁、国立教育会館社会教育研修所に勤務の後、宇都宮大学教授などを歴任。元栃木県教育委員長、元宇都宮市社会教育委員長。主な専門分野は地域づくり、社会教育、地域福祉など



講師 高木 直

1948年大阪市生まれ。共立女子短期大学、山形大学に勤務し、2014年に定年退職。2005～2008年山形大学付属小学校校長（併任）、2012～2021年山形県男女共同参画センター館長 専門分野：家庭科教育法、被服学



当日は、刺し子やアイヌ民族の衣装、刺繍、木彫りなどの工芸品の展示も行います。直接手で触れて、感触を楽しんでいただきたいと思います。着用体験も可能です。展示は11時から行いますので、展示だけでもご覧ください。

問合せ・申込み

